

## 八王子市こども科学館 基本方針・基本計画（平成21年度～30年度）

### 1 基本方針

市民が身近で科学の知識を享受するとともに、科学を通して交流を図る場を創出し、科学の普及及び意識啓発に努める。

科学知識の習得と“探究心”を育む

科学を通して交流を図る場を創出する

科学に関する調査・研究を行う

市民と協働して事業展開を図る

### 2 基本計画及び基本施策

新たなコンセプトの設定

専門分野の明確化

（開館以来）これまで主として天文・宇宙及び物理に関する知識の普及と啓発を図るために、事業の展開を図ってきました。

今後は、それらにとどまらず、自然科学全般を視野に入れながら、科学の専門施設としての機能と活動を充実させていきます。

なお、自然科学とは、物理学、化学、生物学、地学及び天文学を言います。

調査・研究機能の充実

科学館の主たる使命は、市民に正しい科学の知識を伝えることにあります。そのために、科学に関する分野の調査・研究をすることが、科学館にとって欠かすことができない活動となります。

交流機能の整備

市民が科学の知識を享受し、また学べる専門施設として、いつでも科学を通して交流する場の創出を図ります。

これにより、市民の科学知識や経験を豊かにすると同時に、市民同士の科学を通しての交流も図られます。

## 事業の充実

### プラネタリウム番組の充実

プラネタリウム機器は、平成 19 年度において、光学式プラネタリウム、音響システム、機器制御システムの更新と全天周デジタル映像システムの導入を図りました。

光学式プラネタリウムにおいては、約 37 万 5 千個の恒星の投影が可能となり、従前より一層美しく、そしてリアルな星空の再現が可能となりました。また、全天周デジタル投影システムにおいては、動画の再生機能はもとより、3次元デジタルプラネタリウム機能により、太陽系から宇宙の果てまで再現できます。宇宙の何処にでも行くことができ、観覧者が宇宙空間にいるような臨場感のある体験が可能になりました。

プラネタリウムは科学に関する知識を伝えるとともに、本館の集客性の向上を図る主要な施設であります。今後は、機器の特性を生かし、天文・宇宙だけでなく、広く自然科学の分野に関する番組やエンターテインメントの要素を取り入れた番組づくりを行うとともに、シリーズ番組など新たな視点での番組づくりも進めます。

### 展示物の更新

展示物は、見て、触れて、体験することにより、「なぜだろう」と不思議に思うことから科学の知識を学ぶきっかけとなる重要なツールとなっています。

また、このことが科学館を利用する理由の大きな要因にもなっているため、利用者の拡大を図るには、展示物の更新が不可欠です。

そのため、平成 15 年度から 5 年間、展示物の更新を行ってきましたが、未だ多くの展示物は開館当初のものとなっています。既に、見慣れて興味が薄れているだけでなく、稼動するものの老朽化により科学現象が伝えられないもの、故障して直せないもの、そして部品の調達が困難で修繕に時間と経費を要して復帰の見通しの立たないものもあります。このことは科学館としての魅力を削ぎ、利用者の減少の要因となっています。今後の展示物の更新にあたっては、新たなコンセプトに沿い、今までどおり体験型の展示物を中心に更新計画を策定し、改善を図ります。

### 科学教室等の充実

科学工作教室、科学実験教室や科学実験ショーなどの科学教室は、ものづくりや科学の実験を体験し、科学の不思議さ、驚きや楽しさを学ぶ機会として有効な方法です。

最近、科学館主催の科学教室は、参加者の減少が見られるため、今後、市民のニーズを把握し、教室の目的（ねらい）や対象年齢など明確にするとともに、偏りのない内容で実施します。

特に、科学実験ショーは、大人から子どもまで多くの利用者に科学の不思議さや驚きを体験させることができることから、事業の拡大を図ります。

そして、一つのテーマを数人のグループで調査、研究、実験をしたり、ものづくりを行ったりするワークショップは、子どもの科学する心を育てる有効な手段であることから実施方法について検討します。

また、パソコン教室については、パソコンが一般家庭に普及したことや民間の教室で充足できることから、廃止を含めあり方を検討します。

### 企画事業等の実施

企画事業は、科学館の調査・研究の公開の機会として、また、利用者の拡大を図る視点からも効果があるという理由から継続実施します。

また、自然科学の研究者と市民が最先端の科学の話題について語り合い、科学に親しむ場としてサイエンスカフェなどの新たな事業の展開を図ります。

### 科学に関する調査と研究

市教育委員会では、自然科学（特に、生物、地学など）に関する貴重な資料を所有しているため、科学館として市民の財産ともいえるこれらの資料を有効に活用することを目的に調査・研究を引き継ぐことを検討します。

### 事業評価制度の導入

科学館の事業や事務処理については、常に自己点検を実施しながら、改善を図ります。

特に、事業の推進に当たっては、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のマネジメントを実施するとともに、効果的な事業の実施を図るために、事業評価制度を導入します。そして、評価の客観性と透明性を確保するために、事業評価については八王子市博物館協議会が行います。

#### (仮称)「科学館友の会」の創設の検討

科学館及び科学に関心がある人と人の交流を図るほか、科学館の支援組織の役割を担う組織として(仮称)「科学館友の会」の創設の検討を行います。

#### 専門性の確保

##### 館長の配置

科学館の活動や事業の展開の方向性を示し、管理運営を円滑に推進させる役割をはじめ、地域内外との連携や館を広くアピールする役目を担うために、科学の専門知識を有する館長(非常勤)の配置を検討します。

##### 専門職員(学芸員など)の配置

科学館としては、市民や利用者へ正確な知識を伝えるために専門的知識を有する職員の配置が不可欠になっています。これまでは科学に関する研究不足と専門的知識を有する職員の十分な配置ができず、利用者への解説サービスが十分に行われていない状況にありました。

そこで、科学館に必要な科学の分野の専門的知識を有する職員を採用し科学指導員として配置します。業務は、プラネタリウム番組制作、科学に関する調査・研究、科学教室や企画事業の企画・立案・実施、他の機関との連携とボランティアの指導などとなります。

##### ボランティアの活用

市民の「生涯学習の場」と「市民参加の場」として、また、科学館としては、科学教室の企画及び実施、展示物の説明、イベントの補助や館内の案内などに「市民の力」としてボランティアの活用を図ります。

なお、活用するにあたり、受け入れるための環境整備を図ります。

##### 職員の資質の向上

職員については、資質の向上を図るために、研修(教育)を計画的に実施します。

#### 企業・大学等との連携

##### 地域の企業や大学との連携

企業や大学との連携については、展示物の制作、壁面絵画の制作、パソコン教室の講師の派遣や出張科学実験教室などでの連携を図ってきました。

企業や大学とは引き続き同様な連携を図るとともに、共同研究の視点からも実

施の可能性を模索します。

また、市内にある大学と科学分野のインターンシップの受け入れについて調整を図ります。

#### 高校との連携

高校には、専門的知識を有する教員や科学に関わるクラブがあることから、連携を検討します。

#### 小・中学校との連携

子どもに科学に関する知識の普及及び啓発を図るには、学校との連携が必要です。現在、小学4年生と中学3年生は、星の学習でプラネタリウムを活用しています。

今後は、天文や宇宙だけでなく、自然科学の他の分野とも連携を図ります。

#### NPO との連携

科学学習のノウハウを有しているNPOと連携し、科学教室の充実を図ります。

#### 他の博物館等との連携

科学館の事業の充実を図るために、他の博物館との連携を検討いたします。また、地域の文化の向上を目指して、市内の博物館や美術館などとネットワークを構築します。

#### 施設の改修と設備の更新

##### プラネタリウムの改修

プラネタリウム機器の更新に伴い、全天周映画投影装置を撤去したため、そのスペースの活用を図るとともに、20年間使用しているドームの座席、床やドームスクリーンなどを改修し、快適な観覧環境を創ります。

##### 施設設備の更新

開館以来稼動している空調設備や放送設備等の設備関係が老朽化しているため、計画的に更新を図ります。

#### 効率的な管理運営

##### 運営管理体制の再整備

科学館の基本方針の達成をめざして、運営管理体制の再整備を図ります。

特に、利用者への直接サービス部門や調査・研究部門の充実を図るために、管理運営を担当する部門と事業を担当する部門との分業化を図ります。

#### 情報の発信力の強化

科学の専門機関として、科学に関する調査・研究を行い、年報を発行し、科学情報の発信力を強化します。

#### PR活動の強化

これまでのPR活動として、市の広報誌の掲載、科学館のホームページへの掲載、市内小学校全校の児童や保育園・幼稚園への催し物チラシの配付、ミニコミ紙への掲載、専門雑誌への掲載や駅前地下駐車場掲示板への掲示などを行うとともに、近隣市の保育園、幼稚園や小学校へ催し物のチラシを送付しています。今後は、さらに、さまざまなメディアを活用した積極的な広報活動を展開します。